

(別紙) 栽培実験計画書

栽培実験名	除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示栽培
実施独立行政法人・研究所名	独立行政法人 農業生物資源研究所
公表年月日	平成23年 4月21日

1. 栽培実験の目的、概要

(1) 目 的

遺伝子組換え技術について、科学的、客観的な情報提供を行うため、除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示栽培を行う。

(2) 概 要

本栽培実験では、平成23年6月上旬から平成23年9月上旬まで、独立行政法人農業生物資源研究所内のほ場で栽培を行います。

除草剤耐性ダイズの栽培では、無除草、一般的な雑草防除及び除草剤耐性ダイズの特性を生かした非選択性除草剤を用いた雑草防除を行い、雑草防除効果を観察してもらいます。また、同ほ場内で栽培する非遺伝子組換えダイズへ非選択性除草剤を散布し、除草剤耐性ダイズと比較・観察してもらいます。なお、除草剤耐性ダイズ及び非遺伝子組換えダイズは、種子が完熟する前に抜き取ります。

害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシは、アワノメイガを駆除するための殺虫剤は散布せず、非遺伝子組換えトウモロコシと比較して害虫抵抗性の効果がわかるように栽培します。なお、花粉飛散を防ぐために遺伝子組換えトウモロコシは、開花前に全て除雄します。

2. 栽培実験に使用する第1種使用規程承認作物

- (1) 作物の名称：除草剤耐性ダイズ（系統名40-3-2）の派生系統「AG3701」（モンサント社）
害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシ（系統名Bt11）の派生系統
スウィート種「GSS0966」（シンジェンタ社）

(2) 第1種使用規程の承認取得年月日等

① 除草剤耐性ダイズ

平成17年5月25日に第1種使用規程（使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為）の承認を取得しています。

② 害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシ

平成19年4月24日に第1種使用規程（使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為）の承認を取得しています。

(3) 食品安全性承認作物又は飼料安全性承認作物の該当性

除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシ(Bt11)の食品安全性は平成13年に厚生労働省より、飼料安全性は平成15年に農林水産省によって確認されており、いずれも食品安全性承認作物、飼料安全性承認作物に該当します。

3. 栽培実験の全体実施予定期間、各年度ごとの栽培開始予定時期及び栽培終了予定時期

(1) 全体実施予定期間

平成23年6月上旬 ～ 平成23年9月上旬

(2) 各年度ごとの栽培開始予定時期及び栽培終了予定時期等

平成23年 6月上旬 組換えダイズ及びトウモロコシ 播種
非組換えダイズ及びトウモロコシ 播種

平成23年 9月上旬 栽培終了

（ダイズは種子の成熟具合を確認して、完熟前（9月上旬頃）に抜き取る。）

(参考) 平成24年以降の予定

平成23年度の展示栽培を見学した方のご意見等を参考に、平成24年度以降に展示栽培を行うかを検討するため、現在は未定です。

4. 栽培実験を実施する区画の栽培規模及び位置（研究所等内等の区画配置関係）

(1) 第1種使用規程承認作物の栽培規模

除草剤耐性ダイズ 56m²（非選択性除草剤散布区20m²、慣行除草区12m²、無除草区12m²、比較用非組換え12m²の4区画）
害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシ 75m²（比較栽培区25m²、比較用非組換え25m²、混栽区25m²の3区画）

(2) 栽培実験区画の位置：別紙図参照

過去のデータ等から、本栽培実験ダイズの開花期の平均風速が毎秒3mを超えない区画であることを確認しています。

5. 同種栽培作物等との交雑防止措置に関する事項

交雑防止措置の内容

除草剤耐性ダイズ：栽培実験区画は、研究所内で試験栽培されている最も近いダイズほ場から10m以上離します。なお、栽培実験区画は、研究所外の最も近い農家の畑まで約550m離れています。また、開花期の低温により交雑の可能性が想定される場合及び開花期に台風等による強風が想定される場合には、防風ネット等で抑風します。

害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシ：開花前に除雄します。

6. 研究所等の内での収穫物、実験材料への混入防止措置

- ① 実験材料を研究所内の種子貯蔵庫から栽培実験区画に搬入する際には、こぼれ落ちないように密閉容器に入れて搬入します。また、収穫物を実験等で使用するために栽培実験区画から持ち出す場合は、こぼれ落ちないように袋詰めを行って搬出します。
- ② 中間管理作業、収穫作業を行った作業者は、栽培実験区画外へ移動する際は、作業に使用した機械、器具及び長靴等をほ場内で入念に清掃した後、管理棟洗い場において洗浄し、遺伝子組換えダイズや遺伝子組換えトウモロコシが外に持ち出されないようにします。
- ③ 遺伝子組換えダイズ及び同区画で栽培した非組換えダイズは、種子が完熟する前に抜き取ること、遺伝子組換えトウモロコシは開花前に除雄することから、他の収穫物や実験材料に混入することはないと考えていますが、抜き取った遺伝子組換えダイズ及び同区画の非組換えダイズや除雄した遺伝子組換えトウモロコシの種子を処分のため栽培実験区画外に搬出する際は、こぼれ落ちないように袋詰めを行います。また、野鳥等による拡散を防止するため、播種後に防鳥網を一定期間設置します。

7. 栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物の処理方法

- ① 栽培を終了した植物体（遺伝子組換え農作物及び非遺伝子組換え農作物）は、速やかに抜き取り、研究所内で焼却等不活化処理を行います。また、栽培実験区画外に搬出する場合には、種子がこぼれ落ちないように袋詰めして搬出します。
- ② 植物体地下部は、試験ほ場をロータリープラウにより耕起し、鋤込みます。

8. 栽培実験に係る情報提供に関する事項

- ① 栽培実験を開始する前の情報提供等
茨城県、つくば市、JA谷田部及びJAつくばへ情報提供。今後も栽培実験の詳細について情報提供を予定。
- ② 説明会等の計画
平成23年4月21日 計画書の公表
5月 上旬 栽培実験に係る説明会 場所：（独）農業生物資源研究所
その他、播種を行う場合には、そのお知らせを当研究所ホームページに掲載する等により情報提供します。また、栽培実験実施中は随時見学を受け付けます。
- ③ 近隣にお住まいの方への情報提供
近隣自治会の自治会長宅へ出向き栽培実験に関して情報提供を行い、各戸には回覧で栽培実験の概要と説明会等についての情報を提供します。

④ その他の情報提供

栽培実験の実施状況については、当研究所ホームページ (<http://www.nias.affrc.go.jp/>)
で情報提供を行います。

⑤ 本栽培実験に係る連絡先

(独) 農業生物資源研究所 広報室

電話番号 029-838-8469

9. その他必要な事項

栽培実験区画における後作の予定

栽培作物 小松菜及びライ小麦 播種時期 11月

処分時期 翌年4月 処分方法 栽培実験区画内に鋤込み処理

(参考)

○除草剤耐性ダイズの除草効果及び害虫抵抗性トウモロコシの抵抗性

○参考資料

※当研究所ホームページで、当研究所における研究の概要を紹介しているので参照ください。

(<http://www.nias.affrc.go.jp/>)

また農林水産省ホームページで遺伝子組換えに関する情報を提供しています。

(<http://www.s.affrc.go.jp/docs/anzenka/index.htm>)

【除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの栽培の様子】



(非選択性除草剤使用区)



(慣行除草区)



(無除草区)

平成22年度の除草剤耐性ダイズの展示ほ場栽培より



(組換えトウモロコシ)



(非組換えトウモロコシ)



(非組換えトウモロコシの
アワノメイガの食害の様子)

平成22年度の害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示ほ場栽培より

【参考文献】

- 與語靖洋 「除草剤の影響を受けないダイズ」 遺伝子組換え食品＜新しい食材の科学＞（学会出版センター） pp. 63-87（2000年）
- 真鍋忠久 植物の化学調節 33:1 pp. 81-87（1998年）
- 河原畑勇 「害虫に強いトウモロコシ」 遺伝子組換え食品＜新しい食材の科学＞（学会出版センター） pp. 88-105（2000年）

平成22年度 市民参加型展示ほ場（平成22年 7月24日（土））



除草作業の様子



遺伝子組換えダイズの
観察の様子



遺伝子組換えダイズへの
除草剤散布の様子



GFP遺伝子を導入した
組換え生物の観察の様子



DNA抽出実験の様子



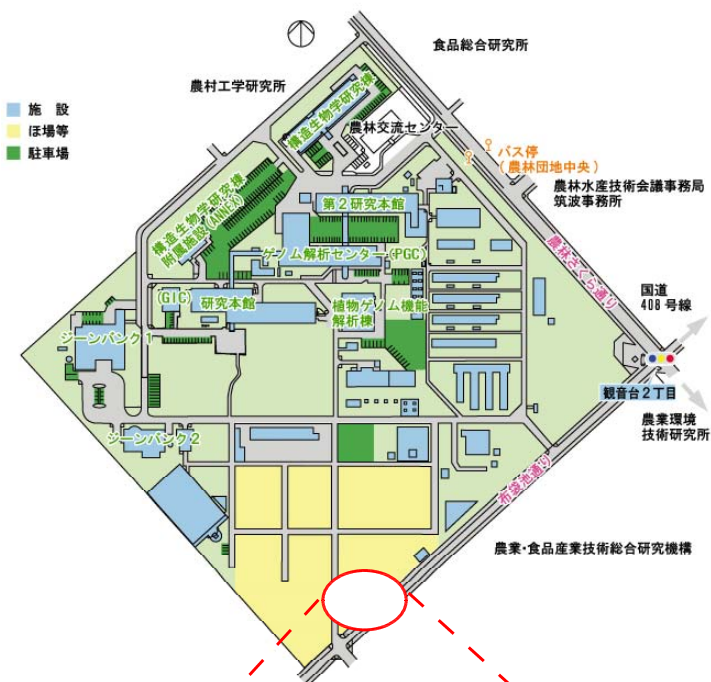
情報提供の様子



グループディスカッションの様子

【栽培実験区画の位置】

独立行政法人 農業生物資源研究所 本部地区 茨城県つくば市観音台2-1-2



【栽培実験区画配置図】

